

笑顔を生むために

五十ℓ。これは、貧困国で暮らす人が、一日に使用する水の量です。

この数字を聞いて、少ないと感じる方も、想像していたよりも多いと感じる方もいるかと思います。しかし、例えば私たちが毎日入るお風呂には、一回で約二百ℓの水が使われています。

つまり、私たちがお風呂に入るだけで、貧困層で暮らしている人の約四日分の水を使っているのです。そう考えると、貧困国で起こっている水不足の現状が、どれほど深刻なものか、想像できると思います。

この作文を書くに当たって、世界の水不足の問題について調べてみましたが、やはりどうしても、その過酷さを想像するには限界があります。

そこで私は、夏休みを利用して、貧困国と同じく、五十ℓだけの水を使って一日生活してみました。一日だけということもあり、始める前には、なんとかなるだろうという思いが強かったのですが、

その自分の考えは一瞬で覆されました。初めて節水を心がけて生活したことで、普段生きていく中でどれだけ私たちが水に頼っているかを実感したからです。

料理をするにも、顔を洗うにも、歯磨きをするにも、水は必要不可欠です。そうになると、この生活の中では、お風呂に入ることはもちろんできませんし、

トイレに行ける回数すら限られてきます。

生活の中で、飲料水はなかなか減らせない分、生活用水の節水を心がけましたが、それでも五十ℓに収めるのは、とても難しいことでした。

今回は、一日だけだったのでお風呂に入る分の水を省くなどの工夫をすることで五十ℓに収めることができましたが、この生活を毎日続けていくことは、絶対に無理です。

しかし、そんな私たちには想像もできないような生活を送っている人が、世界には何億という単位で存在します。

私は、この経験をしたからこそ、この水不足の問題の大きさに気づくことができました。

この経験を通して私を感じたのは、上限を設けることの大切さです。今回私が五十ℓという上限を設け、それを意識して生活したように、

一日に使う水の量を何ℓ以内に収める、というルールを自分の中で作れば、自然と節水を心がけるようになります。

世界中の人々に必要な分の水が行き渡るためには、水に恵まれている日本に住む私たちが動かなければなりません。

水不足で悩む人たちが使える水の量を少しでも五十ℓから増やすには、私たちが使う水の量を少しでも五十ℓに近づけることが一番の解決策です。

今日は二百ℓに収まるように節水してみよう。そんなあなたの意志によって、世界に笑顔が増えると思うと、

たったそれだけのことにやりがいを感じませんか。

私はこれからも、水を求めて苦しんでいる人のために、節水を続けます。

もしあなたにも私の思いが届いたならば、

蛇口をひねる前に一度、あなたが節水することによって、

世界中の人々に笑顔が生まれることを、

ぜひ思い出してみてください。



北杜市立甲陵中学校 三年

上村 藍

絵 さぶさちえ